

養護採点基準

4枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	1	(ア)	体重		各2×5	
		(イ)	胸郭			
		(ウ)	四肢			
		(エ)	眼			
		(オ)	心臓			
	2	家庭における健康観察を踏まえて、学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて、疾病をスクリーニングし、児童生徒等の健康状態を把握する。		順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×2	
		学校における健康課題を明らかにすることで、健康教育の充実に役立てる。				
	3	保健管理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健調査・日常の健康観察・健康診断結果から、児童生徒等の健康課題を把握し、共通理解を図るとともに学校保健計画の立案に役立てる。 ・配慮を要する児童生徒等について把握するとともに、個々の配慮事項についての共通理解を図り、学習・運動・学校行事等について、個々に応じた措置（軽減、停止等）を行う。 ・健康診断結果等から、机、いすの適正、低視力者に対する座席の変更など必要な配慮を行い、学習環境を整える。 		それぞれ2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各4×6
		保健教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個人・集団の健康診断結果等を体育・保健体育等の教科指導に活用する。 ・特別活動においては、望ましい集団活動を通して、児童生徒等の心身の健康を増進し健全な生活態度を育成するために保健指導等に健康診断結果等の活用を図る。 ・健康診断結果等でスクリーニングされた個々の健康問題に対して、定期的かつ継続的に、健康観察・保健指導・健康相談を行う。 			
		組織活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会において、健康診断の実施及び結果の事後措置に関する事項を議題として取り上げる。 ・教職員研修会及びPTAの各種会合において活用し、健康づくりに役立てる。 ・生涯にわたっての健康づくりを考えたとき、学校保健は地域保健等と密接な関わりを持っていることから、地域の関係機関等との連携を図る。 			
				42		

養護採点基準

4枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点
2	学校保健計画に低視力者の保健指導を位置付け、教職員の周知を図ること。	順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 6 36
	健康診断の視力検査の結果、視力がB以下の児童を把握すること。		
	視力検査の再検査日を設けること。		
	再検査の結果、視力がB以下の児童に対して、個別に保健指導を実施すること。		
	教室環境の整備を図ること。		
	個別の指導が必要な児童に対して定期的に視力検査を行い、経過観察を行うこと。		
2	<p>早期に眼科受診すれば治る可能性が高いため、受診させる。</p> <p>また、正しい姿勢で読書や勉強を行う、部屋は明るすぎたり暗すぎたりしない、家で夜勉強するときは、部屋の照明と合わせてスタンドを使う、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活等についての基本的な留意事項について、児童の生活状況に即して指導する。</p>	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12
3	<p>歯・口の健康づくりを通じた生活習慣の改善に当たり、学級担任、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラーなど学校内における連携、また医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携を推進するコーディネーターの役割を担う。</p>	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10

養護採点基準

4枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点	
4	<p>健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因がかかり合って発生すること。</p> <p>健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。</p> <p>喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。</p> <p>健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医薬品は、正しく使用すること。</p> <p>個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取組と密接なかかわりがあること。</p>	<p>順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>	各5×6	30
5	<p>(1) 前頭骨</p> <p>(2) 頬骨</p> <p>(3) 上顎骨</p> <p>(4) 下顎骨</p> <p>(5) 頭頂骨</p> <p>(6) 側頭骨</p>	<p>頬骨 もよい。</p>		
6	<p>一次救命処置の手順により手当を行う。また、嘔吐を伴うときは、窒息しないよう気道を確保する。安静を保ち、やたらに名前を呼んだり、ゆり動かしたりしない。ショック予防のため、保温をする。</p>	<p>内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。</p>		12

養護採点基準

4枚のうち4

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
7	1	(ア)	d		各 4× 4
		(イ)	c		
		(ウ)	a		
		(エ)	b		
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）に基づき、保護者との面談を行い、この生徒の食物アレルギーやアナフィラキシーについて、原因や具体的な症状及び発生した時期について確認する。 ・食物依存性運動誘発アナフィラキシーは、運動と原因食物の組み合わせにより、はじめて症状が誘発されることから、運動する場合は、運動前4時間以内は小麦の摂取を避け、食べた場合は、以後4時間の運動を避ける等の学校生活上の留意点について確認する。 ・学校生活管理表（アレルギー疾患用）に基づき、緊急時の対応体制や持参薬の管理等を含んだ個別の取組プランを立案し、校内委員会において検討するとともに、決定された対応について、全教職員間で連携を図る。 ・保護者、本人、主治医・学校医及び宿泊先等を交えて十分に情報交換し、修学旅行中の食事や活動内容の対応の在り方について検討する。 ・修学旅行に参加する教職員に対して、アドレナリン自己注射薬に関する一般的知識やこの生徒についての情報の共有及び食物アレルギー発生時の緊急対応の事前確認を行うとともに、必要に応じて訓練を実施する。 ・宿泊先で、重篤な症状が出現した場合を想定し、搬送する医療機関などを事前に調査するとともに、救急で受診する際に円滑な治療を受けるため、主治医からの紹介状を用意する。 		3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 12 × 3